

講義コード	20DRSh0101
講義名	地域文化学特論 I
講義開講時期	前期 1st Half
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
研究科等	文化科学研究科
専攻・プログラム	地域文化学専攻
科目区分	共通科目
授業を担当する教員	中川理
担当教員	
氏名	
中川 理	

#### 授業の概要

本授業では、グローバリゼーションの人類学を、人、テクノロジー、メディア、思想、お金などの国境を越えた流れによって生成する様々な「新しい生のかたち」を理解しようとする研究としてとらえる。その上で、とくに人の移動に注目しながら、既存の枠組みからは逃れてしまいう「新しい生のかたち」をとらえるためにはどのようなアプローチがありうるのかを考えていく。本授業では、まず「伝統的な」文化人類学のアプローチについて理解したうえで、トランスナショナルな移動に注目する種々の新しいアプローチが「どのような問いを発しているのか」「どのような答えを導こうとしているのか」を、具体的な事例を用いながら検討する。また、授業で学んだ概念を用いて、受講生自身が事例を調査して発表を行う。それによって、グローバリゼーションが進む状況のなかで文化人類学的研究を行うための一つの基本的視座を獲得する。

#### 到達目標

グローバリゼーションの人類学において利用できる問いの枠組みと、これまで生み出されてきた成果を理解する。それらの枠組みを活用して、それぞれの受講生が関心を持っている現象を切り取り、問題化することができるようにする。

#### 成績評価基準

	成績評価基準
成績評価基準	01:A,B,C,Dの4段階評価

#### 成績評価方法

最終発表と最終レポート 40%、毎回のメモ提出とディスカッションへの参加 60%

#### 授業計画

1. イントロダクション
2. 文化人類学のアプローチ
3. フィールドワークについて
4. 文化的多様性の発見
5. 本質主義への批判
6. 文化と異種混濁性
7. グローバリゼーションの人類学の構想
8. 代表的論者の検討（1～3）
9. グローバリゼーションの人類学の課題
10. 受講生による発表

課題テキストについてのメモを各自が作成し、それにもとづいたディスカッションを行うかたちで毎回の授業を進める。「受講生による発表」では、本授業で学んだアイデアや概念を用いて具体的事例を各自が検討し、その成果を発表する。

#### 実施場所

国立民族学博物館（状況によってオンライン開催）

#### 使用言語

日本語

#### 教科書・参考図書

特になし